

# 熱帯木材貿易の動向

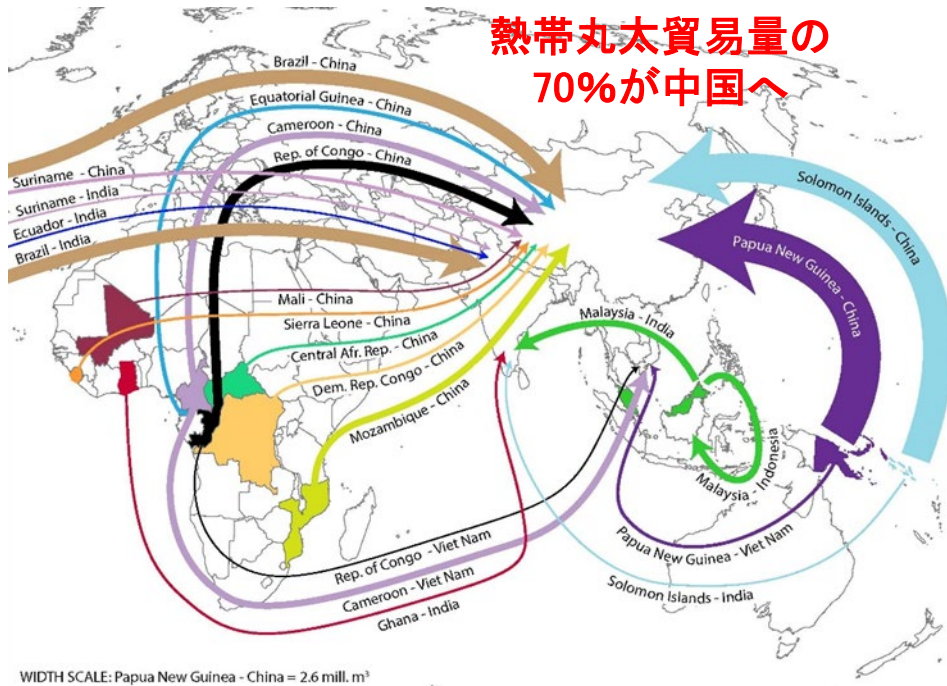
- ITTO「世界の木材に関する隔年評価報告書2019-2020」より -

令和3年9月  
林野庁 木材貿易対策室

# 1. 熱帯木材貿易の概況

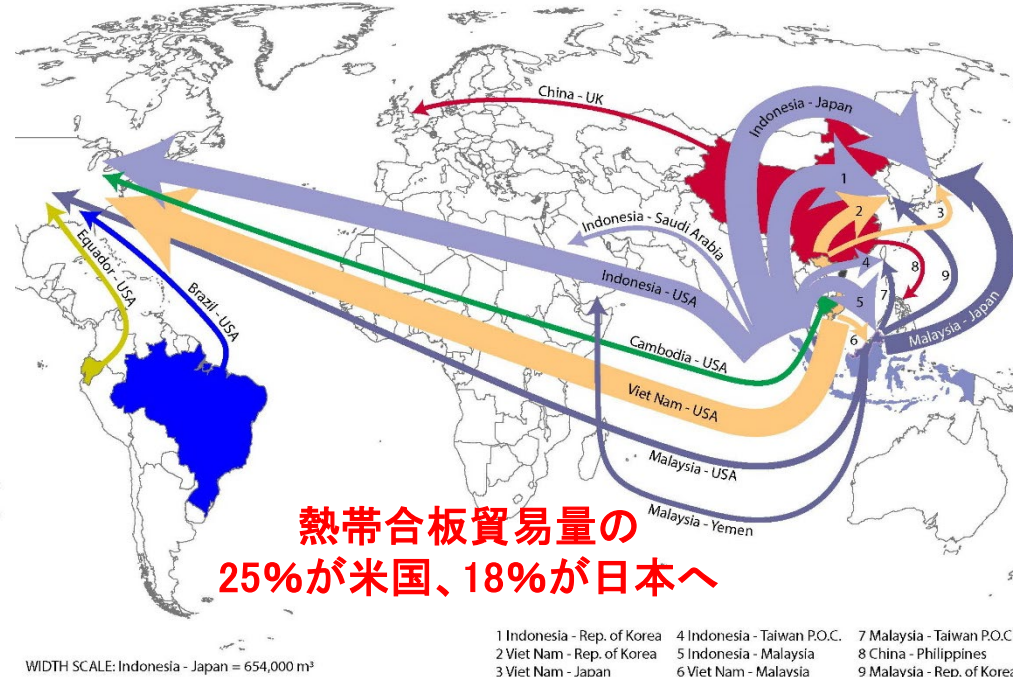
- 2020年における世界の熱帯丸太生産量は3.3億m<sup>3</sup>(※全丸太の17%)。うち、インドネシア24%、インド15%、ベトナム11%。
- 世界の熱帯丸太輸入量は1,226万m<sup>3</sup>。最大の輸入国は中国(858万m<sup>3</sup>、世界シェア70%)。中国は、主にPNGとソロモン諸島から熱帯丸太を輸入。近年、アフリカからの輸入も増加。
- 世界の熱帯合板生産量は4,670万m<sup>3</sup>(※全合板の42%)。うち、中国59%、インド21%、インドネシア9%。
- 世界の熱帯合板輸入量は661万m<sup>3</sup>。うち、米国25%、日本18%(119万m<sup>3</sup>)。
- 我が国は、世界第2位の熱帯合板輸入国。1998年まで世界最大の熱帯丸太輸入国であったが、現在のシェアは0.6%。

熱帯丸太貿易量の  
70%が中国へ



資料: ITTO (2021) Biennial review and assessment of the world timber situation 2019-2020

熱帯産丸太の貿易(2020年)



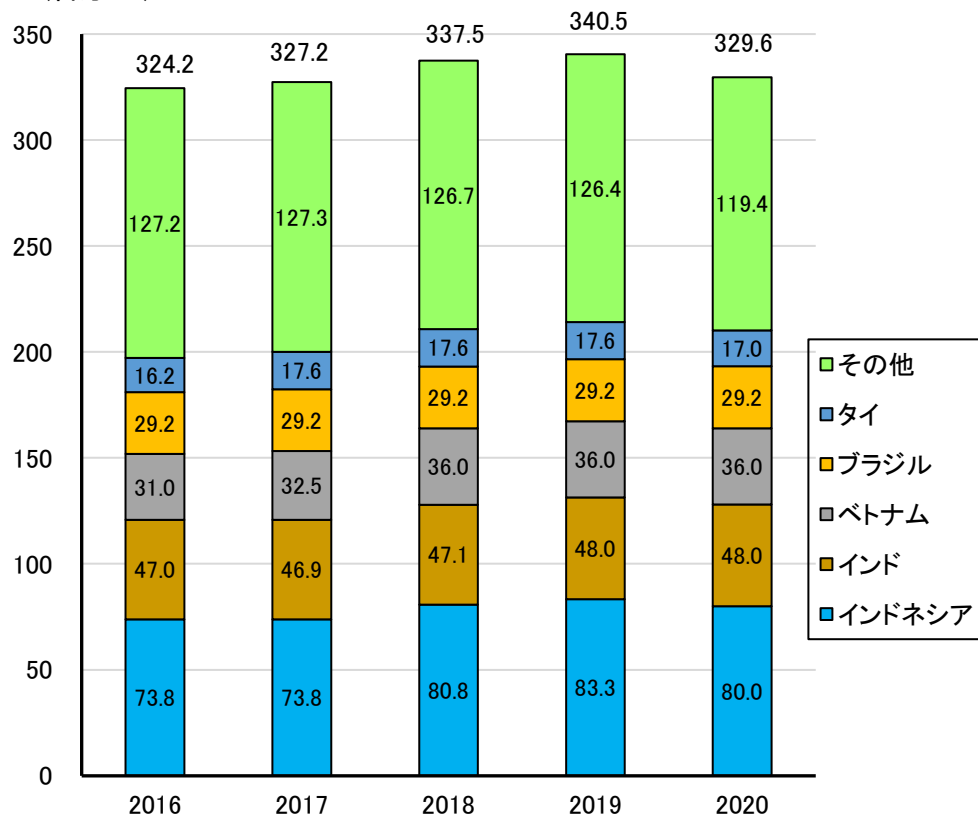
熱帯合板貿易量の  
25%が米国、18%が日本へ

熱帯産合板の貿易(2020年)

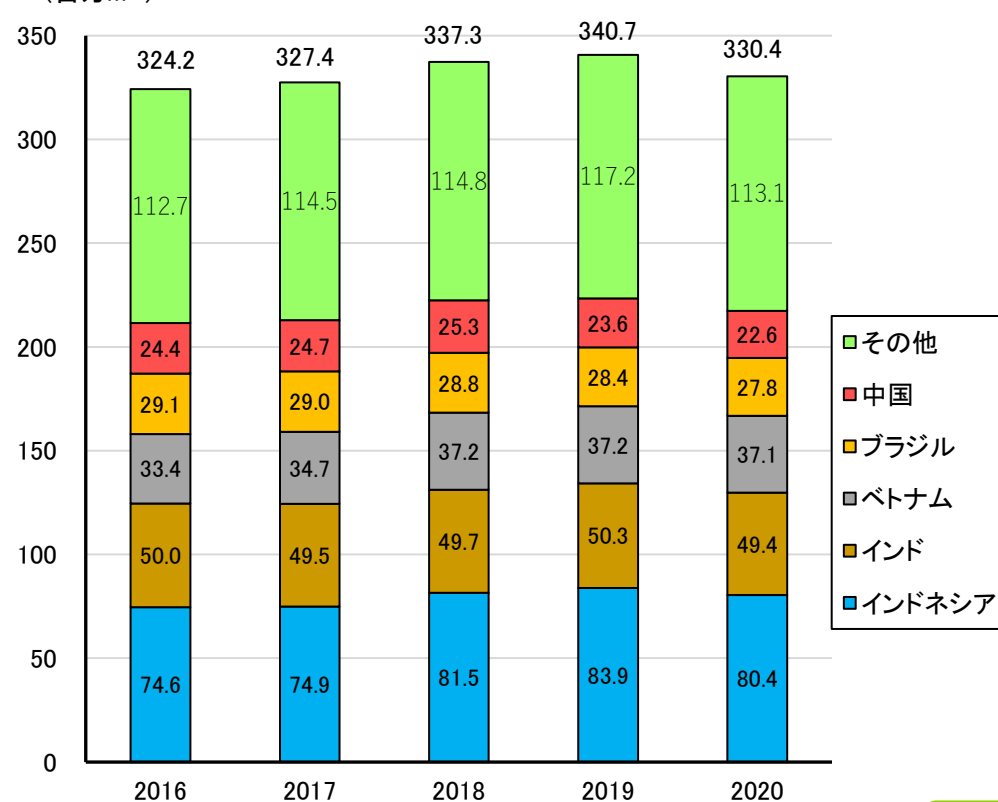
## 2. 熱帯丸太の生産量・消費量

- 2020年における世界の熱帯丸太生産量は、前年比3.2%減の3.3億m<sup>3</sup>。インドネシアが最大の熱帯丸太生産国で、世界全体の24%を占める。生産量のほぼ全てを国内で消費。近年、産業造林地と森林の農地転換からの生産割合が上昇。
- 次いで、インド:15%、ベトナム:11%、ブラジル:9%、タイ:5%。
- 同年における世界の熱帯丸太消費量は、前年比3.0%減の3.3億m<sup>3</sup>。インドネシアが最大の熱帯丸太消費国で、世界全体の24%を占める。次いで、インド15%、ベトナム11%、ブラジル8%、中国7%。

(百万m<sup>3</sup>)



(百万m<sup>3</sup>)



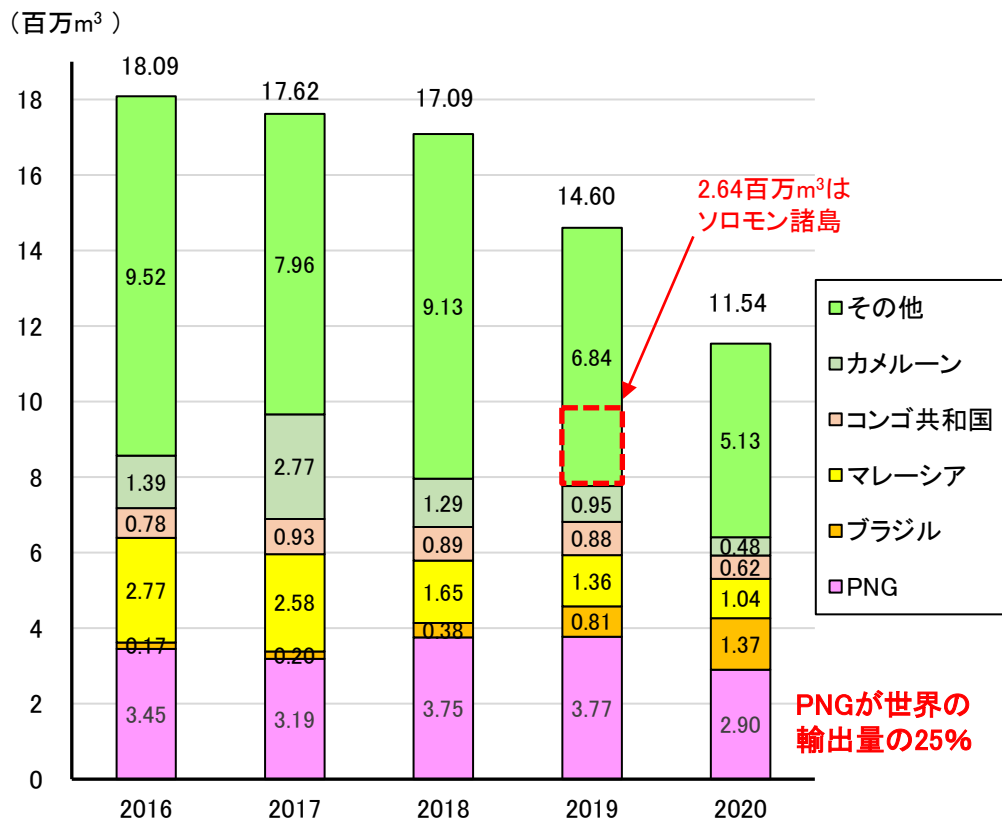
資料: ITTO(2021)より作成(以下同)。

熱帯丸太の生産量の推移

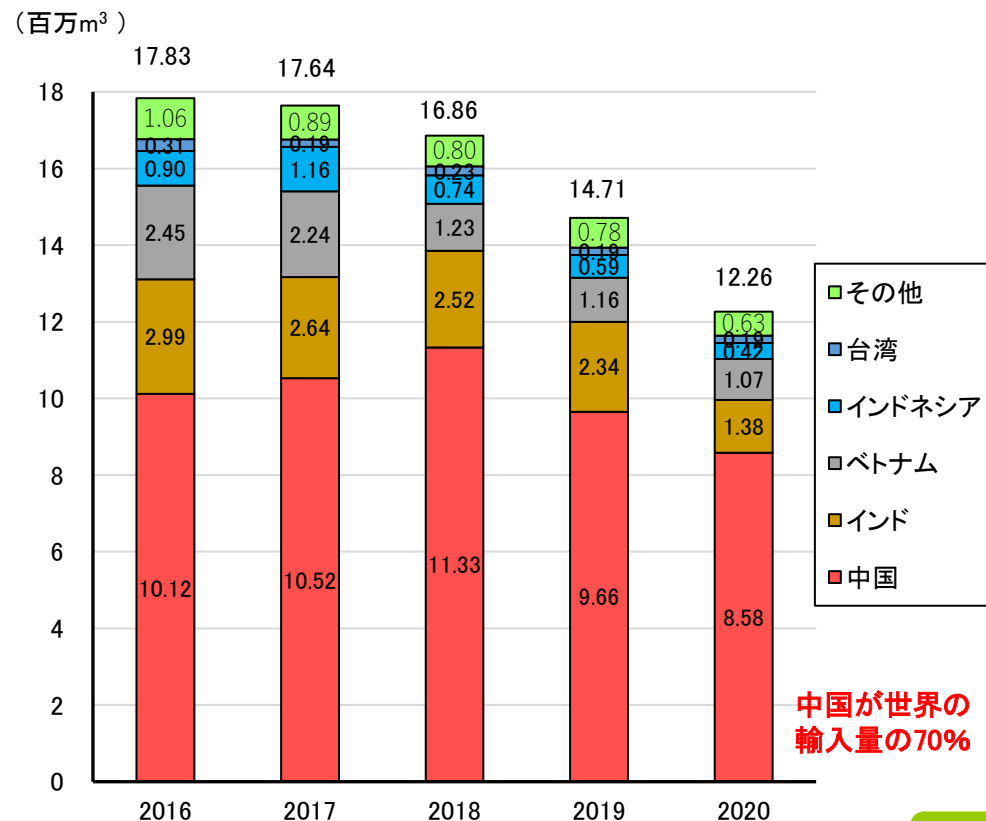
熱帯丸太の消費量の推移

### 3. 熱帯丸太の輸出量・輸入量

- 2020年における世界の熱帯丸太輸出量は、前年比21%減の1,150万m<sup>3</sup>。パプアニューギニア(PNG)が最大の輸出国で、世界全体の25%を占める。同国からの輸出量の90%が中国向け。
- ソロモン諸島からも、2019年に264万m<sup>3</sup>を輸出(※ソロモン諸島はITTO非加盟国のため、詳細データなし)。
- 次いで、ブラジル:12%、マレーシア:9%、コンゴ共和国:5%、カメルーン:4%。近年、ブラジルからの熱帯丸太(ユーカリ類)の輸出が急増。アフリカ材の主な輸出先は、中国、インド、ベトナム。
- 同年における世界の熱帯丸太輸入量は、前年比17%減の1,230万m<sup>3</sup>。中国が最大の輸入国で、世界全体の70%を占める。



熱帯丸太の輸出量の推移

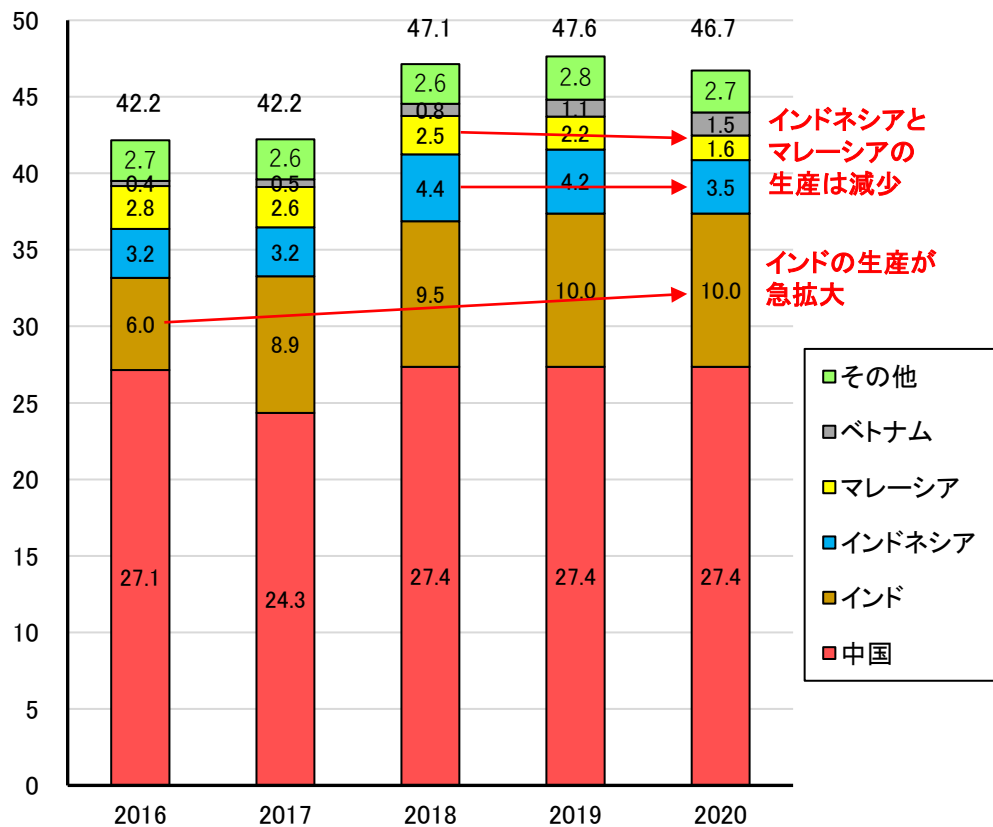


熱帯丸太の輸入量の推移

## 4. 熱帯合板の生産量・消費量

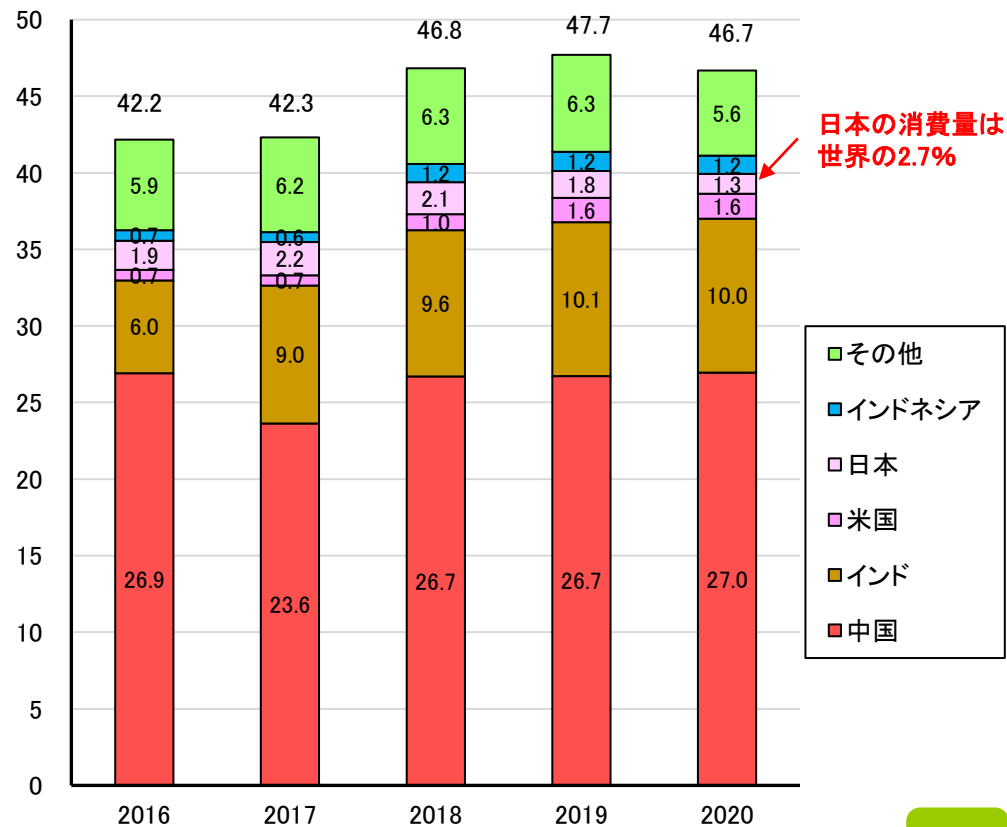
- 2020年における世界の熱帯合板生産量は、前年比2.0%減の4,670万m<sup>3</sup>。中国が最大の生産国で、世界全体の59%を占める。生産量のほぼ全てを国内で消費。インドの合板生産は、過去10年間で大きく拡大。原料は輸入丸太に依存。
- インドネシアとマレーシアでは、原料丸太の入手困難化により、生産量が減少傾向。
- 同年における世界の熱帯合板消費量は、前年比2.1%減の4,670万m<sup>3</sup>。他資材との競争激化により減少傾向。中国が最大の消費国で、世界全体の58%を占める。日本の消費量は128万m<sup>3</sup>で、世界全体の2.7%。

(百万m<sup>3</sup>)



熱帯合板の生産量の推移

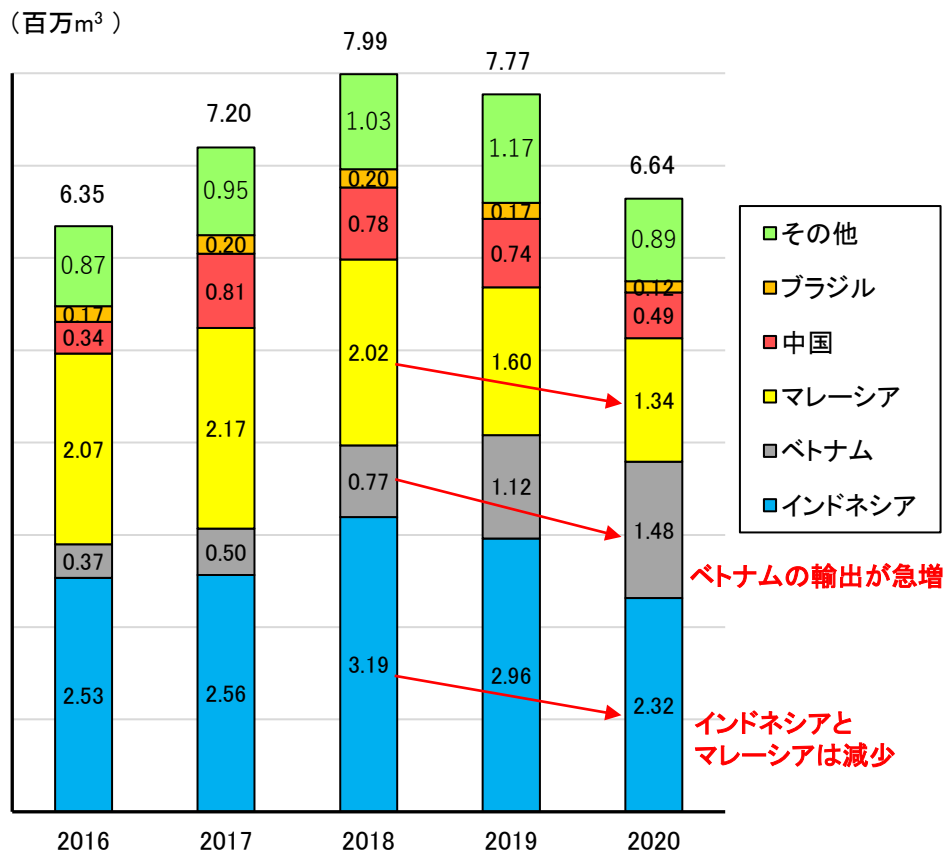
(百万m<sup>3</sup>)



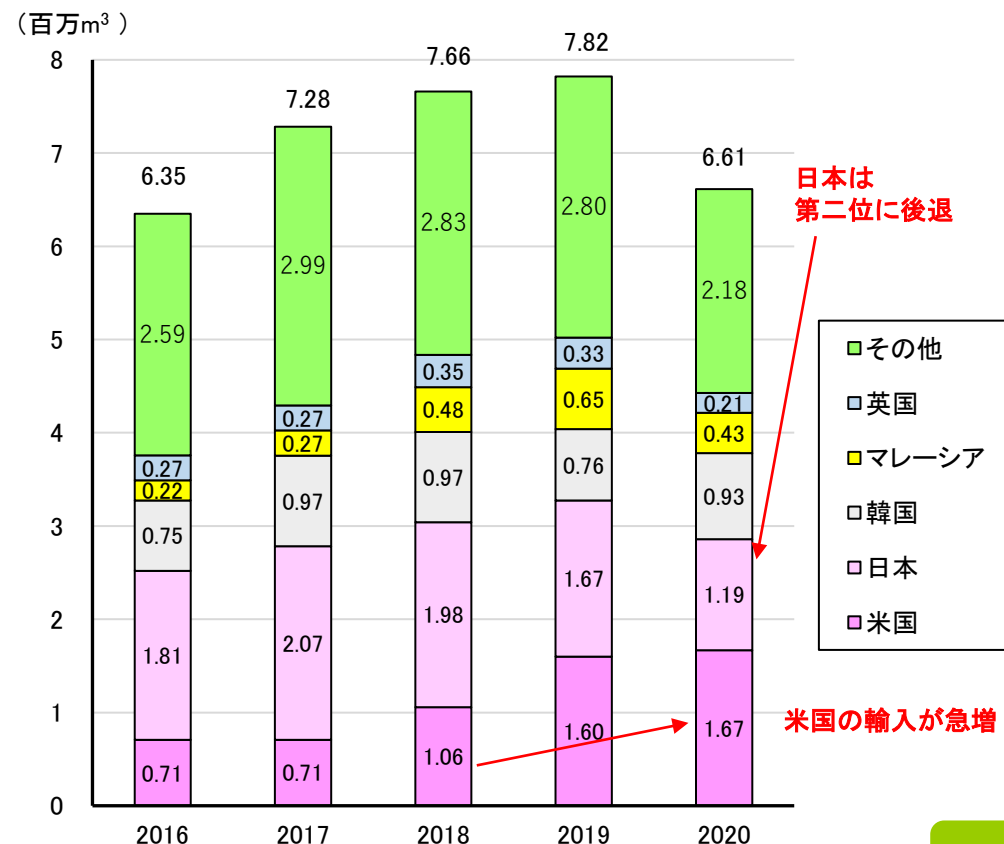
熱帯合板の消費量の推移

# 5. 熱帯合板の輸出量・輸入量

- 2020年における世界の熱帯合板輸出量は、前年比15%減の664万m<sup>3</sup>。インドネシアが最大の輸出国で、世界全体の35%を占める。インドネシアとマレーシアでは、コロナ禍に伴う丸太供給減少、労働力不足、コンテナ不足等により、輸出量が減少。
- 米中貿易紛争により、米国が中国産の広葉樹合板に相殺関税等が課したことから、中国企業は合板の生産拠点をベトナム等に移転。これにより、中国からの輸出が減少する一方、ベトナムからの輸出が急増。
- 同年における世界の熱帯合板輸入量は、前年比15%減の661万m<sup>3</sup>。米国では、コロナ禍以後の住宅需要急増により、輸入が急増。日本は、これまで世界最大の熱帯合板輸入国であったが、米国に抜かれて、第2位に後退。

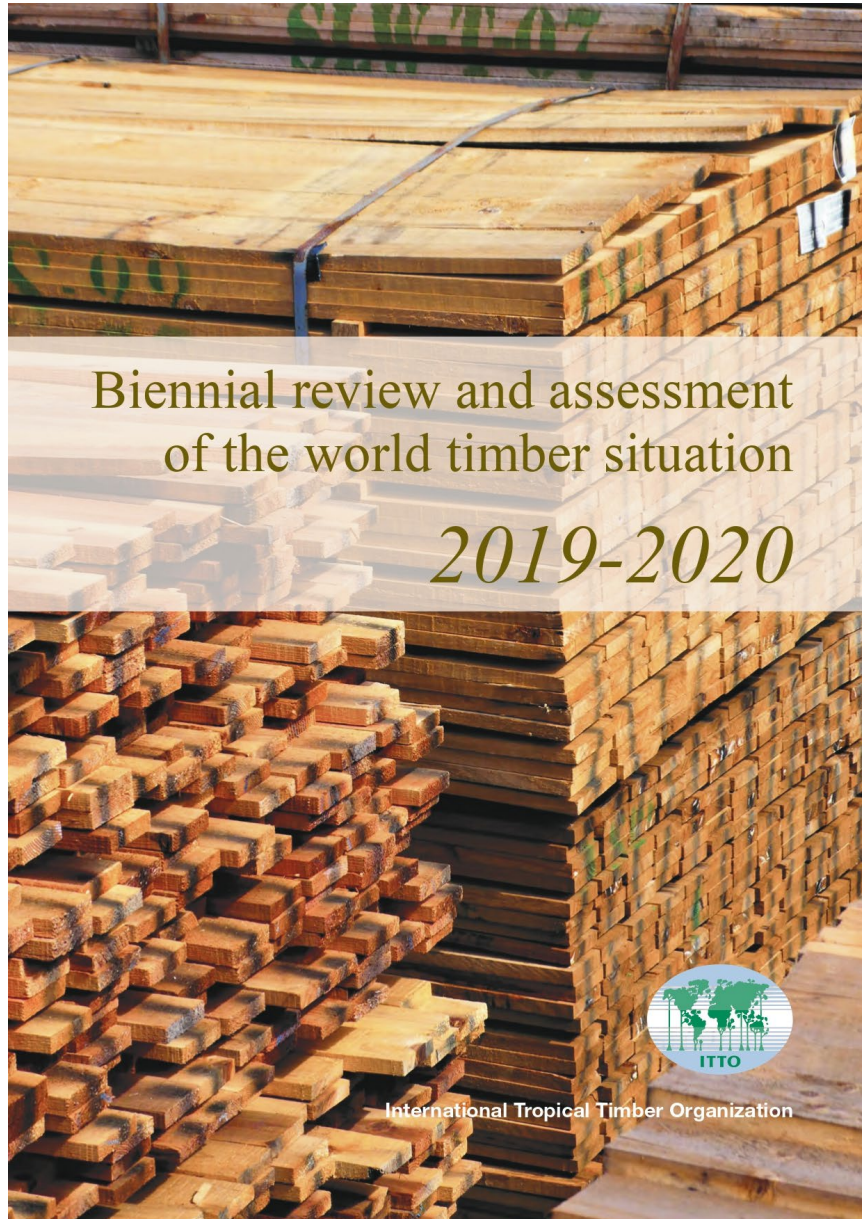


熱帯合板の輸出量の推移



熱帯合板の輸入量の推移





- ITTOは、熱帯木材協定(ITTA)第28条に基づき、隔年で「世界の木材に関する隔年評価報告書」を作成・公表。本年8月に、2019-2020年版を公表。
- 本報告書は、特に熱帯木材に焦点を当てて、2019~2020年における世界の木材市場の動向を整理。
- 本文4章(46頁)と附表(176頁)から構成。
  - 第1章：主要な木材市場の動向
  - 第2章：熱帯木材製品(熱帯丸太、製材、単板、合板)の生産、消費及び貿易に関する分析
  - 第3章：(木製家具等の)二次加工製品の貿易に関する分析
  - 第4章：インドの木材需給に関するカントリーレポート。
- 以下のサイトより入手可能。  
[https://www.itto.int/annual\\_review/](https://www.itto.int/annual_review/)

※なお、本報告書における「熱帯木材(tropical timber)」の定義は、「北回帰線と南回帰線の間に位置する国で生育する又は生産される産業用の熱帯(に生育する)木材」(※針葉樹を含む)。